

1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月9日

【評価実施概要】

事業所番号	1273400265		
法人名	医療法人社団 恒久会		
事業所名	グループホーム ならわの家		
所在地	千葉県袖ヶ浦市奈良輪718番地 (電話) 0438-62 - 1168		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4 - 4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年10月9日	評価確定日	11月15日

【情報提供票より】(20年9月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年1月1日(平成15年9月1日増床)		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人, 非常勤 3人, 常勤換算15.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨陸屋根造り		
	4 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000円	その他	食料費39,000円, 水道光熱費17,000円, おむつ代実費	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000円)	有りの場合 償却の有無	有り:無利子預かり・契約終了時に精算金を差し引いて残額返還	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要(9月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山口医院 木更津病院 きっかわクリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

内房線袖ヶ浦駅から徒歩約10分ほどの周辺には住宅も多く、鉄骨造コンクリート4階建ての1,2階に位置している。1階は和室と洋室、2階はすべて洋室のつくりとなっており、入口付近には季節の花が植えられ、敷地内には菜園もあり季節ごとに入居者と職員が野菜づくりを楽しんでいる。食事には季節感のある食材が使用され、入居者の状態に合わせて1階と2階のメニューが変えられるなどの配慮がされている。職員の職場に対する満足度も高く、家族からの要望にも迅速に対応がされている。近隣には同法人の山口医院(内科・外科ほか)もあり医療面での連携も図られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	散歩の際に近所への挨拶をしたり、行事の案内を配布し地域との交流の機会が増えた。市内にある他のグループホームとの交流も始まり、アドバイスをもらうなどの関係づくりが確立された。日常的な外出支援は改善計画も立てられ、隣接する法人関係の施設にある売店への買い物も試みられた。また、菊まつり、みかん狩りなどの年中行事の際にも外出している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各自職員が自己評価をした後、管理者を交えて話し合いが持たれた。その結果が管理者によってまとめられたが、外部評価の意義や目的が明確に職員に伝えられていなかったために、職員の意見が評価の中にあまり反映されていなかった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議のテーマは管理者によって提案され、外部評価、入居者の対応困難事例などの内容が討議された。また、ホームの生活環境に関しては、メンバーからの要望も出され、車椅子対応の洗面所の改築や、入居者がトイレや風呂場の位置がわかるように印がされ、生活しやすい環境に改善された。運営推進会議の議事録はホームの玄関に設置され、誰でも閲覧できる状態になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会が年2回、母の日と敬老の日の行事にあわせて開催され、家族からのホームへの意見や要望が出されている。また、行事後に家族に対してアンケート用紙が配布され、その中で自由に意見を書いてもらえるよう配慮がされている。家族からの要望に関しては迅速に対応し、その結果はホーム便りに書かれているが、家族がホーム以外の外部者に相談出来る受付窓口が重要事項説明書やホーム内に掲示されるまでにはなっていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	法人合同行事である納涼祭をはじめ、収穫祭、近隣の保育園児とのハロウィンや芋煮会の交流も盛んである。近所の住民、袖ヶ浦駅前にある交番、洋菓子店にも“ならわの家”の入居者への理解が深まってきている。今後は非常災害時に地域からの協力が得られる関係づくりが課題として上がっている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“ならわ”の地名を頭文字とした“なごやかで、らんらん楽しい、わたしのホーム”というわかりやすい理念となっている。更に地域の中で暮らすを支えるという内容の部分が加えられると、地域密着型サービスとしての特徴が、より明確になるように思われる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念がホーム内の見やすい位置に掲示されており、職員間で共有されている。管理者はミーティング等の際に、常に理念に基づいて職員に対して話をするように心がけており、職員も日々この理念を意識しながらケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	寺への初詣、保育園児との交流など、年間を通して地元の人々との交流の機会をつくっている。特に、恒例行事である納涼祭、収穫祭には近隣の住民を招待している。新しい試みとして、管理者が老人クラブへ挨拶に訪れたことで、これからの更なる交流の機会が期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価後、職員全体で話し合いが持たれ、外出支援など具体的に改善計画が立てられた。今回の自己評価は、職員各自に評価表が配布され意見が求められたが、職員の声の評価の中にあまり反映されておらず、管理者が中心となりまとめられた。	○	勉強会等を通じて、職員の外部評価の意義や目的への意識が高められた上で、来年度の自己評価には職員の意見が反映されることに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催であり、会議のテーマは管理者によって提案されている。入居者の困難事例、災害時の地域協力、ホーム内の改装案など、より良いホームづくりの為に協力がメンバーから得られている。会議の内容はホーム便りの中にも記載され、入居者の家族へも伝えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の相談員が毎月ホームを訪問し、入居者と話をしたり、相談員から見たホームの評価などを聞かせてもらっている。市との交流は定期的であり、良い関係づくりが確立されている。地域包括支援センターとの交流も持たれている。しかしながら、この1年間はホームの行事案内などを市に対して配布していない。	○	ホームのパンフレットや行事案内を掲示してもらうなど、更なる市との連携が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、面会時に健康状態や金銭管理の報告がされ、2ヶ月ごとにホーム便りも配布されている。入口付近には“家族お知らせ版”のコーナーが設けられ、職員の組織図が掲示されている。今後は家族からの要望もあり、職員の写真を掲示する予定である。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年に2回開催されており、ホームに対する意見や要望が出されている。意見箱も設置されているが、活用はされていない状況である。重要事項説明書への外部者の相談窓口の記載にはいっていない。	○	重要事項説明書に外部への相談、苦情窓口の連絡先が記載されると共に、ホーム内にも窓口の連絡先の掲示がされることにより、家族が外部にも意見等を表せる機会が設けられることに期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の職場環境に対する満足度も高く、悩みを自由に相談できる関係や環境が整えられている。職員の異動や離職の際には、入居者に対してダメージを配慮しながら説明がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者と職員出席のもと、毎月テーマに沿って勉強会が開かれている。また、外部への研修にも必要に応じて参加できる配慮がされている。新人の職員に対しては、担当の職員が支援にあっている。法人としては、新人懇談会が開催され、自由に職場での不安や悩みを相談できる場が設けられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会に加入し、会議に出席している。また、この1年間では、管理者が地域のグループホームを訪問したり、電話での交流を通じて、悩みや相談ができる関係が築かれた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に本人、家族に見学を勧めている。見学が困難な場合には職員が自宅を訪問し、本人の環境を理解し、まず信頼関係を築くようにしている。入居後も本人の不安などに配慮するため、家族への面会を依頼するなど、徐々にホームでの生活に馴染める工夫がされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と入居者が一緒になって食事の準備、配膳がすすめられ、家庭的な雰囲気がホームの中に感じられる。また、入居者に対して、職員は常に家事などを一緒にやってもらえるかの声かけをしている。家庭菜園、料理の味付けなど、職員が入居者から教えられることも多い。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で声をかけ、行動や表情からも汲み取り、思いや希望はこまめに日常的に書きとめている。職員は入居者の視点に立って、その人らしい暮らし方を支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議で、心身の情報を職員全員で記入し、意見交換を行い、介護計画の作成に活かしている。家族の要望も話し合いで聴き、本人からは日々のかかわりの中で汲み取り、介護計画に反映させている。家族には計画書を説明し、同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月ごとに評価し、6ヶ月ごとに見直しを行っている。体調不良・入院等で状態が変化した時は、その時々気づきや意見を個々に検討して、計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人が運営母体であり、協力病院として医療連携が密接である。運営母体のその他サービス事業との文化祭に作品を出品したり、合同行事を計画・実施している。今後は、近隣の老人会等に積極的に参加するよう検討しており、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医のほか、それまでのかかりつけ医での医療も受けられる旨、家族に説明して納得を得ている。協力病院(運営母体)の院長の往診は2週間に1度、看護師は毎週訪問しており、適切な医療を受けられることで、本人・家族、そして職員も安心した暮らしをしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取り介護に関する指針は作成されているが、まだ事例はない。病状の変化などに伴う緊急時対応についても、医療・家族とも密接に連携がとれるように家族会でも話し合っており、柔軟に対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月一回の勉強会で職員に意識向上を図るとともに、リーダー職員の日常的な確認や、現場職員間で助言しあい、尊厳を守るように取り組んでいる。家族会でも個人情報の取り扱いについて確認している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールはあるが、その時の本人の気持ちを尊重して支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、入居者と一緒に菜園から採ってきた野菜や、旬のものを取り入れており、見た目も色とりどりで美しい。職員と一緒に調理、盛り付け、片付けるなど、食事を一日の大切な活動とし、楽しく食事が出来る雰囲気作りをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は週5日沸かしており、入居者は少なくとも週2回は入浴する。希望があれば毎日の入浴も可能で、入浴を拒む入居者には、シャワー浴や足浴などで柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敷地内の菜園で農業経験のある入居者が活躍したり、調理では職員が入居者に味付けを習ったりしている。誰に言われるまでもなく皆で食事の後片付けを始めたり、生活を楽しんでいる。職員間で入居者の希望を引き出すよう心がけ、役割を持てるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は声をかけ、なるべく外へ出て散歩するよう支援している。運営母体の合同行事にも参加し、外出機会を増やすよう努めている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、防犯のため夜間のみ施錠し、日中は安全面に配慮しながら施錠していない。2階は、ドアの開閉時にチャイムが鳴り、外に出る入居者がいれば職員は後から見守りながら付いて行くようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を入居者とともにいき、うち1回は夜間を想定している。災害マニュアル、緊急連絡表が目につくところに掲示しており、非常通報装置や消火器の使用法も職員は理解している。地震対策についても運営推進会議と家族会で検討を行っている。建物4階の運営母体職員寮とも、災害時の応援体制が出来ている。地域の協力を得るのが今後の課題である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取状況を個別に記録して、体調管理に留意している。献立は運営母体の管理栄養士が作成したものを基に、フロアごとに作成し、栄養チェックをしている。食材は週2回スーパーから配達されている。フロアには”ならわの喫茶”と名付けて自由に飲水が出来るよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分はくつろげる畳や木製品を多く使い、温かみのある居心地の良い空間になっている。廊下の途中にソファを置き、入浴後の休憩やおしゃべりの空間として活用されている。採光にも配慮した壁紙を選び、花や装飾品で季節感を取り入れ、明るい雰囲気を感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	木製のロッカーは全室共通に備え付けてある。使い慣れた家具や衣類・思い出の品や配偶者の遺影を持ち込んで、自宅であるような空間作りに配慮している。それぞれの部屋に手作りのカレンダーが掛けられている。		